茅輪神事　輪越、夏越）　七月三十一日　午後八時

茅輪神事は「ちのわしんじ」と読み、茅輪をくぐり越えて罪穢を除き心身の清浄ならんことを祈請するので、「輪越祭」「茅輪くぐり」とも称されている。「茅」とは、「ち」、「が」や」、「ちがや」、であって「すげ」、「すすき」など、多年生草木の総称であります。茅輪の起源については次のように言われています。

神代の昔、武塔神（素戔嗚尊）が、南海のほうへお出になる途中、あるところでお泊まりになろうとして土民の蘇民将来、巨旦将来という兄弟に宿を求められその時、弟の巨旦将来は、裕福な身であったにもかかわらず、宿を拒んだのに対し兄の蘇民将来は、貧しい身であったが、尊をお泊めし、粟がらをもって座を設け、粟飯を饗して御待遇申し上げた。その後、年を経て尊は再び蘇民将来の家を訪れ、

「もし天下に悪疫が流行した際には、ちがやをもって輪をつくり、これを腰につけておれば免れるであろう。」と教え給いました。この故事に基づき、蘇民将来と書いて、これを門口に張れば、災厄を免れるという信仰が生じ、また祓の神事に茅輪をつくってこれをくぐり越えるようになったのであります。このように茅輪は、最初は各自が腰につけるほど小さいものでありましたが、時代を経るにつれて大きくなり、社頭にこれを設け、あるいは鳥居や神門などにとり懸け、これをくぐり越えて祓除を行うようになって今日に及んだのであります。また、この茅輪をくぐった後、一部を賜り、小さな茅輪をつくり玄関に懸けておくと一年間その家は災厄から免れるとも言われております。茅輪神事には、古来別に定まったものが無く、それぞれの神社の慣例によって行われていますが、田殿丹生神社では次の通り行われております。

一、氏子崇敬者は人型を神社より受けて、それに穢れをうつし、それを身代りにして心身を清める。

一、大祓式を行った後、宮司以下祭員並びに参列員が一列に並んで順次に茅輪をくぐり越える。（三度）

一、お祓いをした人型は川に流棄する。

皆様のご参拝をお待ちしております。

当日はお抹茶の接待を予定しております。川風が涼しい夏瀬の森で、お抹茶を楽しみ、心身を清め、清々しい力を賜わっていただけたらと願っております。

田殿丹生神社